

関西看護医療大学大学院 看護学研究科<高度実践助産師養成コース>

母性看護・助産学分野における学修過程とディプロマ・カリキュラム・アドミッションポリシー

【ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)】

本コースでは、以下の能力を学位授与の方針とする。

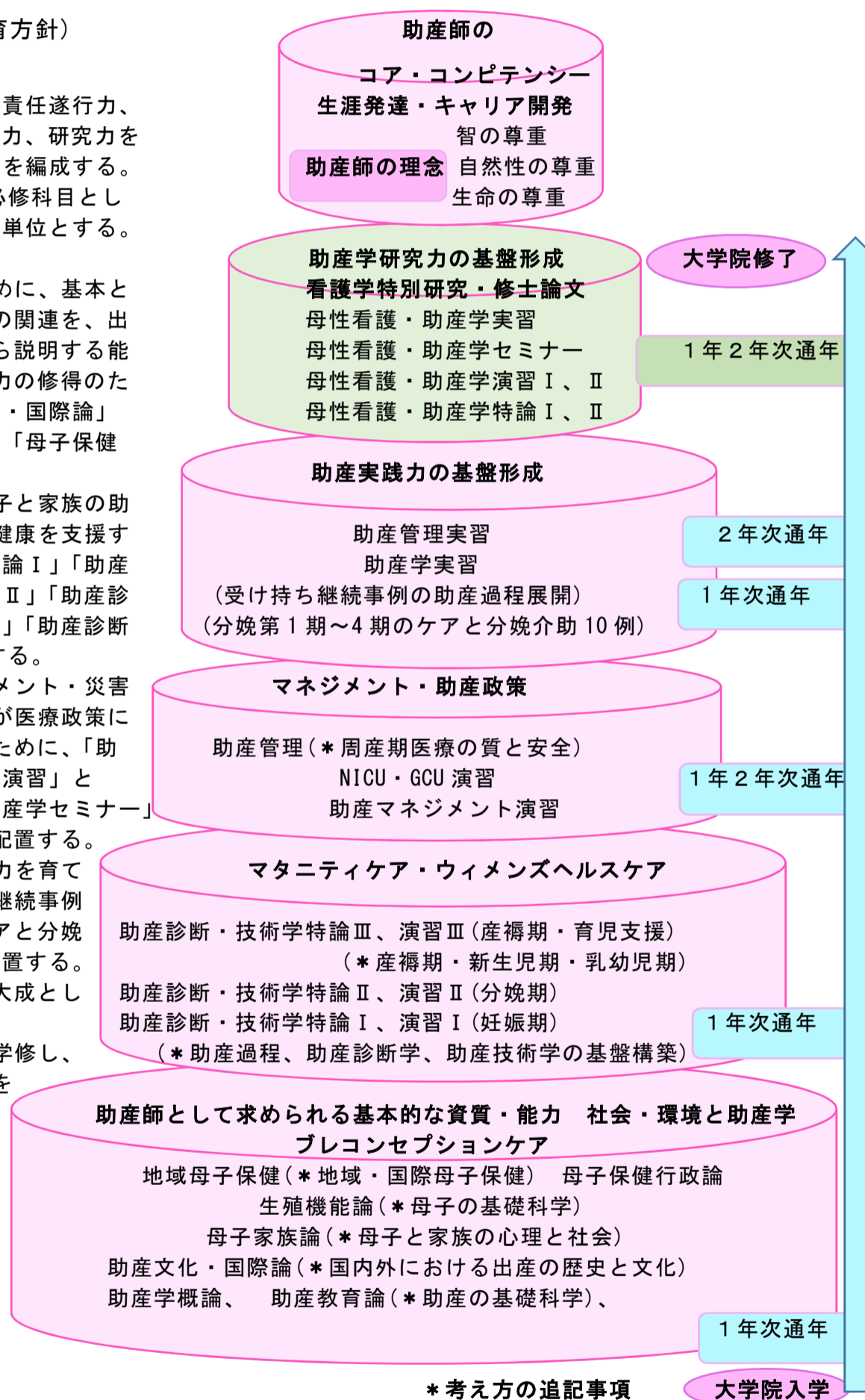
1. 助産師として生命を重視する倫理観を持ち自律した助産実践者としての責任遂行力
2. 助産師としてのセルフケアと自己研鑽を続ける基本的な専門的自律力
3. 周産期医療における的確な知識と助産学・看護学の理論に基づいた基本的な助産実践力
4. 共に働く人々と連携・協働し助産実践対象者のより良い健康支援を目指す対人関係形成力
5. 母性看護・助産学分野における研究課題を発見し変革を目指して取り組む研究力

【カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・教育方針)】

<高度実践助産師養成コース>

母性看護・助産学分野における学位授与方針である責任遂行力、基本的な専門的自律力と助産実践力、対人関係形成力、研究力を持つ助産師を育成する方針で、以下のカリキュラムを編成する。助産師国家試験受験資格のために、21科目すべて必修科目として配置し32単位とする。加えて修士学位取得の30単位とする。

- ① 助産師としての役割・責務を遂行していくために、基本となる資質や能力の修得、社会・環境と助産学の関連を、出産の歴史や文化、地域社会や社会システムから説明する能力の修得、性と生殖の自己決定を支援する能力の修得のために、「助産学概論」「助産教育論」「助産文化・国際論」「母子家族論」「生殖機能論」「地域母子保健」「母子保健行政論」7科目を1年次通年に配置する。
- ② 妊娠・分娩・産褥期と新生児・乳幼児期の母子と家族の助産診断と助産実践の修得、女性の生涯に渡る健康を支援する能力の修得のために、「助産診断・技術学特論Ⅰ」「助産診断・技術学演習Ⅰ」「助産診断・技術学特論Ⅱ」「助産診断・技術学演習Ⅱ」「助産診断・技術学特論Ⅲ」「助産診断・技術学演習Ⅲ」6科目を1年次通年に配置する。
- ③ 周産期における助産管理の実際およびマネジメント・災害時の助産師の役割についての修得、助産ケアが医療政策に反映されるプロセスと意義についての修得のために、「助産管理」1科目を配置する。なお「NICU・GCU演習」と「助産マネジメント演習」は、「母性看護・助産学セミナー」の科目と連動させ、すべて1年2年次通年に配置する。
- ④ 助産実践力の基盤を盤石に形成し専門的自律力を育て「知と技と心」を修得するために、受け持ち継続事例の助産過程展開と分娩第1期から第4期のケアと分娩介助10例の「助産学実習」を1年次通年に配置する。また、助産学の講義・演習・実習の統合、集大成として「助産管理実習」を2年次通年に配置する。
- ⑤ 助産学における研究的な思考と知識・技術を学修し、助産学の発展に貢献する助産学研究力の基盤を形成するために、「母性看護・助産学特論Ⅰ」「母性看護・助産学演習Ⅰ」「母性看護・助産学特論Ⅱ」「母性看護・助産学演習Ⅱ」「母性看護・助産学セミナー」「母性看護・助産学実習」「看護学特別研究」7科目を1年2年次通年に配置する。



【アドミッション・ポリシー(入学者受け入れ方針)】

1. 人間の誕生に深い関心を持ち、生命の尊厳を重視する倫理観を持つ人
2. 豊かな感受性を持ち、他者と互いに成長できるコミュニケーションを展開できる人
3. 助産学を学修する上で必要な基礎学力と看護現象について自らの考えを持つ人
4. 助産師を志す明確な意志を持ち、主体的に学修に取り組む人
5. 母性看護・助産学分野における研究課題に計画的に取り組む人